

ひなぼと



～NPO法人ピピオ子どもセンター

会報～
vol. 20

平成29年2月16日

JaSPCAN・おおさか大会に参加しました

平成28年11月24日（木）から26日（土）にかけて、日本子ども虐待防止学会（JaSPCAN）の第22回学術集会おおさか大会に参加してきました。24日は、前夜祭シンポジウムとして、大阪の子どもシェルターを運営する「ぬっく」が担当するシンポジウムに参加しました。大阪は虐待案件が多いこともあり、シェルターの利用者数は多いのですが、財源不足の問題や退居先の資源確保の問題など、類似の問題を抱えていることが分かりました。また、このシンポジウムでは、過去にカリヨンに入所していた経験をもつ方へのインタビューが行われ、入所当時の大人への不信感や、シェルターでの生活や弁護士の支援を通じて精神的に安定をしてきたことなどの話も聞くことが出来ました。また、「ぬっく」の理事であるシンガーソングライターの松田陽子さんのミニコンサートでは、松田陽子さんの歌とご自身の虐待等の経験に基づく話を聞くことができ、子どもに自分に価値がないと思わせないような愛情を伝えることが大事だということを感じました。

翌日25日以降は、基調講演や各種分科会が開催されましたが、例年出展しているパネル展示において、ノートパソコンを利用して当センターの紹介映像を流すという新たな試みによるPR活動も行いました。やはり、映像を流すという効果は大きいようで、パネル展示を眺めながら歩いている方が、足を止めて映像を見てくれるという様子も確認できました。分科会においては、児童相談所の一時保護所を小規模化・標準化していくに

あたったの取り組みや、家族再統合支援をする際の注意点等についての講演などを聞いてきました。それぞれの分野で活動をされている方の熱意に勇気付けられると共に、中々、虐待に対する問題がなくなることについての難しさを感じました。2年前だったと思いますが、名古屋での世界虐待防止学会の学術集会が開催された際、子どもたちの発表で、いつになったら虐待のない社会を作ってくれるのかというメッセージが、私は忘れることができません。日々の活動は、小さなことではあるけれども、少しずつの意識変革と虐待の連鎖を食い止めることによる正の連鎖への取り組みを意識して継続していきたいと思いました。

弁護士 砂本 啓介



パネル展示では、ノートパソコンを使った画像（スライドショー）とポスターなどでピピオの活動を紹介しました。

「ピピオの家」を巣立った子どもたちのこと

皆さまにおかれましては、平素よりピピオ子どもセンターの活動をご理解のうえ、あたたかく見守ってくださっていることにお礼を申し上げます。

当センターもおかげさまで6周年を迎え、子どもシェルター「ピピオの家」を巣立った子どもは40人を超えました。

ピピオを巣立つ際、退居者には「何かあったら連絡して」と連絡先を伝えています。

そうすると、すぐに・・の子もいますが、忘れたころにひょっこり連絡してきてくれたりします。

困りごとの相談を受けることもあります。彼女たちの相談は案外に軽微な段階が多くて、その分対応もしやすいです。困ったときの相談相手として、ピピオ関係者を思い出してくれてSOSをくれることは、ピピオの家のもう一つの存在意義かもしれません。

連絡してきてくれる子の多くは、スタッフ、子ども担当弁護士及び理事たちで、彼女たちの行動や発言に「どうしたものか・・・」と頭を抱えた子です。中には、彼女の入居中、その問題行動に振り回され、おとな同士で対応の在り方について喧々諤々議論した子もいます。

そうした退去者が、ピピオを出て数年経ち、それなりに自分の生きる道を見つけ、中には結婚したり子どもを抱えたりしながら、たくましく生き

ている姿を見せてもらおうと、彼女の人生にピピオが少し関わらせてもらったことに、感謝の気持ちがわいてきます。

そして、入居中はよくもまあと思うほど文句を言っていたのに、退去してからは異口同音にピピオでの生活を懐かしそうに話してくれるのですよね。

おとなに傷つけられ、ピピオの家にたどり着いた子どもたちとの関わりは、スタッフ・子ども担当弁護士を中心に、ときとして「格闘」というに相応しいものとなり、きれい事だけでは語れません。しかし、ピピオと関わったその先の人生において、今彼女たちと向き合い・寄り添う意味はきっとあるということ、6年が経過し、自信を持って言えるようになりました。

それに、鍛えてもらった成果として、理事をはじめ関わるおとな達は、少々のことではうろたえないようになりました(笑)。そういう意味でも、私たちがピピオの子どもたちに育てられているなあと、実感します。

もしも、これをお読みになり、ピピオの家やばたけ荘に直接関わってみたくなった方、スタッフも募集しています。是非ピピオ事務局までご連絡ください。

今後とも、ピピオの家とはばたけ荘への末長い見守りをご支援をよろしくお願いいたします。

ピピオ子どもセンター理事 平谷 優子



パイづくり。柿とまるごとカボチャ。
[顔]が笑えますね。



ピピオの家 ハロウィン&クリスマス



窓にクリスマスの飾りをつけました。

子どもシェルター全国ネットワーク会議 in 岡山に参加しました

平成 28 年 10 月 1 日、2 日で、子どもシェルター全国ネットワーク会議 in 岡山に参加してきました。

子どもシェルター全国ネットワーク会議は、平成 24 年の発足当時、正会員及び有志の計 9 都府県の団体が参加していたそうですが、今回は 21 都道府県からの参加があり、この 4 年間で倍増しています。このことは、子どもシェルター及び自立援助ホームに対する関心の高まりを表すとともに、このような動きの中に微力ながら関われることを有難く感じています。今後この気運は一気に全国に広がることは間違いないと思います。

私は、今回初めて参加させていただいたのですが、総会、子ども担当弁護士分科会、全体交流会、

そして夜の懇親会で、子どもの権利に対する強い熱量を感じたこと、そして、個人的なことではありますが、私の県外の同期が、それぞれ自分たちの県にも子どもシェルターや自立援助ホームを設立しようと先頭に立って活躍している様子を見聞きし、非常に多くの刺激を受けました。

来年も是非参加させていただきたいと思えます。そして、今後のピピオの活動に今以上に関わりを持ちたいと思いました。

弁護士 川崎 浩介

スタッフ通信

はばたけ荘のスタッフの H です。

はばたけ荘が開設して 2 年と半年。早いもので、その間 9 人の若者が入居し、4 人が退居・自立して行きました。

16 歳から 17 歳の多感な少年たちが、料理経験も無いおじさんが作った料理を、よく食べてくれていると思います。レポートも無く、料理本を見たり、テレビの料理番組を見たり、パソコンでクックパッドを引っ張り出したり・・・悪戦苦闘しながらのものです。ところが作ればあれは駄目、これは嫌い、と後でダメ出し。トホホ・・・

最近ボランティアの方が来てくださり、美味しいものを作ってくださいますので大変に助かっています。食は命です。

ところで、はばたけ荘のスタッフは 3 人での泊のある交代勤務なのですが、一昨年に一人が退職し、その後、シフトをカバーしてもらった非常勤スタッフも退職されました。それで運営して行かなくてはならず、理事の方や、子ども担当弁護士の方、事務局の方が来てくださり、どうにか成り立っているようです。

この春には、現在高校 3 年在学中の 3 人が、新しい進路に向け旅立つ予定で、就職先も決まり一安心の人もいれば、自分の進学希望突破に向けて頑張っている子もいます。目標突破に向けて頑張りたいと思います。それが色々関わった我々スタッフにとってはこの上ない喜びとなるような気がします。これをご覧になられた方、どうか一つ前へ出て、一緒に関わって行っていただきたいと願っています。



12 月 23 日に、はばたけ荘の子どもたちと子ども担当弁護士、理事などで焼肉を食べに行きました。“男子会”です。

ピピオ掲示板

広島県共同募金会平成28年度社会課題解決プロジェクトに参加しています！

ピピオ子どもセンターでは、今年度も広島県共同募金会が実施する社会課題解決プロジェクトの参加団体として活動しています。郵便局でのみ利用できる専用の振込用紙を利用し、社会福祉法人広島県共同募金会に対し、募金していただくと、広島県共同募金会からピピオ子どもセンターに対し、助成金を頂くことができます。この募金活動の実施期間は平成29年1月から同3月末までです。

なお、詳細については、広島県共同募金会のホームページ（下記URL）を参照してください。

http://220.110.217.42/h-kenkyobo/kaiketsuproject_index.shtml

「ピピオの家」と「はばたけ荘」に入居する子どもたちの生活と自立の支援を行っていくために、引き続きご支援をお願い申し上げます。

生活用品を募集しています

ピピオ子どもセンターでは、「ピピオの家」・「はばたけ荘」から巣立つ子どもたちへ、家具家電などの生活用品を提供しています。皆様のお手元にあります、使われていない生活用品等をご提供頂ければ幸いです。

シンポジウムのお知らせです

子どもの日記念シンポジウム2017 ～聴いてよ。私の声～

日時：2017年4月23日（日）

午後1時30分～5時

会場：広島市青少年センター

第1部 高校生と弁護士らの演劇
(タイトル未定)

第2部 高校生らと弁護士の本音トーク

※入場無料です。

寄付等のご協力ありがとうございました

井上様、コストコホールセールジャパン株式会社様、高桑様、岡野様、大倉様、古川様、森平様、儀保様、真鍋様、吉田様など多数の方々から寄付（金銭、生活用品など）を頂いております。日々子どもたちの生活や、より充実した自立支援のために活用させていただきます。

この場で御礼申し上げます。

○平成29年1月末日時点の会員数○

正会員 個人：94名 団体：7団体
賛助会員 個人：67名 団体：2団体

事務局雑記

○今春、就職、進学などして退居する予定の子が数人います。平坦な道ではないかも知れませんが、一步一步進んでいってくださることを願います。3月は引越しや次の生活の準備などで忙しくなりそうです。

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局

〒730-0014 広島市中区上機町2番36号 S・ウィングビル505号

TEL：082-221-9563 FAX：082-555-3659

ホームページ：<http://www.pipio.or.jp>